

## (2) 西条ブロック (新居浜市、西条市)

### ～産地づくり～

農地・水の保全と水田農業の推進に努めるとともに、消費者に求められる野菜・花きの生産振興及び落葉果樹を核とした果樹産地の復活を目指します。また、流通・販売を見据えて、安全・安心な農産物が安定供給できる農業を推進します。

### ～推進品目や産地づくりの方向～

#### ○農地・水の保全と水田農業の推進

##### 1 県育成品種「ひめの凜」の安定生産

###### 【取組】

- ①栽培講習会の開催（中干し・穂肥施用）で栽培管理を徹底（9回、延べ378人の認定栽培者に指導）
- ②新規栽培者確保に向け、認定栽培者説明会を開催（JA周桑（60人・2回）、JAえひめ未来（36人・2回））
- ③「ひめの凜」の栽培推進に向けて補助事業等の活用を促進  
種子助成事業：JA周桑（1,412千円）  
JAえひめ未来（914千円）

###### 【成果】（R2→R3）

- ①～③により、  
栽培面積：58ha → 164ha 認定栽培者：70人 → 122人  
集荷量：243t → 722t 1等米比率：75% → 95%

##### 2 「ハルヒメボシ」の収量・品質向上

###### 【取組】

- ①栽培指針や専用肥料の検討を行い指導内容を統一
- ②単収向上を目指し、栽培講習会で適期播種・雑草対策・排水対策・後期重点施肥技術及び適期収穫等を指導（4回、延べ40人）

###### 【成果】（R2→R3）

- ①②により、  
生産量：2,841t → 3,725t  
10aあたり収量：394kg → 381kg  
1等比率：92.8% → 0%（※収穫期が梅雨入と重なったため）

##### 3 麦作跡に水稻「ひめの凜」を栽培する輪作体系の推進

###### 【取組】

- ①集落営農組織や大規模農家に輪作を指導
- ②産地交付金の二毛作助成の活用を推進  
二毛作助成：はだか麦後作に「ひめの凜」作付けを推進

###### 【成果】（R2→R3）

- ①②により、麦跡の輪作取組面積：19ha → 74ha

##### 4 大豆「フクユタカ」の生産振興

###### 【取組】

- ・適期播種や排水・病虫害対策及び適期収穫を指導

###### 【成果】（R2→R3）

- 栽培面積：150ha → 155ha
- 生産量：257t → 240t



ひめの凜栽培講習会



ひめの凜の収穫



麦栽培講習会

#### ○流通販売を見据えた野菜・花き産地の強化

##### 1 いちご県育成品種の生産拡大

###### 【取組】

- ①「紅い雫」の特長【土壌病害に強い】等を生産者に伝え、品種の切替による栽培拡大を推進
- ②生産者への技術指導を個別指導や講習会で実施  
講習会：12回、延べ144人
- ③炭酸ガス施用やリアルタイム栄養診断の高単収モデル実証ほを設置し、高品質・多収穫技術を指導

###### 【成果】

- ①②紅い雫栽培面積：1.8ha（R2年：1.5ha）
- ③ 高単収モデル実証ほ収量：4.7 t / 10a
- ③ 炭酸ガス発生装置の設置：346a（R2年：374a）
- ③ R2年の4.3 t / 10a以上生産者数：36人（R元年：34人）



いちご栄養診断

## ○流通販売を見据えた野菜・花き産地の強化

### 2 さといもの収量・品質向上

#### 【取組】

- ①高品質安定生産を図るため、ほ場巡回と疫病検定を随時実施し、関係機関に情報提供するなど、病害対策の徹底を指導
- ②優良種苗確保に向け、親芽副芽セル苗増殖法を用いたセル苗生産技術を指導（2回、延べ82人）
- ③安定生産を図るため、東予地区さといも技術協議会で、越冬対策技術等を共有
- ④JA広報誌（JA周桑、JAえひめ未来）で栽培を呼び掛けるなど、新規栽培者の確保を推進

#### 【成果】

- ①疫病発生面積率：54%（R2年：43%）
- ②③栽培面積：80ha（R2年：74ha）
- ④出荷者数：405人（R2年：409人） 次年新規栽培者数：9人

### 2 加工用青ネギの生産振興

#### 【取組】

- ①リアルタイム栄養診断や病害虫発生調査を実施するなど、部会員の生産技術実態を把握
- ②夏どりに適した品種選定のために実証ほを設置し、技術指導を実施
- ③実需者ニーズを把握するため、大阪で実地調査を実施

#### 【成果】

- ①栽培面積：1.0ha（R2年：1.3ha）  
10aあたり収量：1.8t（R2年：1.5t）
- ②夏どり品種として「春京香」を選定
- ③実需者は硬さを重視であることを確認し部会員に共有

### 3 「ピットスポラム(花木)」や「さくらひめ」など花木・花きの産地化推進

#### 【取組】

- ①東予地域花木生産対策会議で、花屋・消費者ニーズの把握、実需者の要望を把握するための研修会を開催
- ②優良種苗の安定供給に向けた挿し木講習を実施
- ③新規栽培者の確保にむけ、JA広報誌等を活用し栽培推進
- ④実証ほ等を設置し、生産者の栽培技術の高度化を指導
- ⑤さくらひめの夜冷育苗による良質苗生産技術を指導

#### 【成果】

- ①～④花木栽培面積：2.5ha（R2年：1.8ha）  
花木栽培者：22人（R2年：11人）
- ⑤ さくらひめ栽培面積：7a（R2年：9a）  
さくらひめ栽培者：6人（R2年：6人）



さといも愛媛農試V2号  
生育状況



青ネギの新品種の実証



花屋との交流会

## ○落葉果樹を核にした産地の復活

### 1 太天の大玉果安定生産

#### 【取組】

- ①600g中心の果実生産に向け、栽培技術講習を実施（摘蕾、摘果、せん定の基本技術を指導（延べ35人））
- ②摘果を補う摘蕾強度の検討を行う実証ほを設置し、現地講習により生産者へ技術指導を実施
- ③作業性の向上と正品率の向上等を図るため平棚栽培を推進

#### 【成果】

- ①②栽培面積：7.1ha（R2年6.7ha）  
生産量：67.8t（R2年51.4t）
- ③ 棚栽培面積：1.5ha（R2年1.25ha）

### 2 サンゴールド（キウイフルーツ）の生産振興

#### 【取組】

- ①キウイフルーツかいよう病に強い品種「サンゴールド」への改植を推進
- ②大規模栽培法人への技術支援及び施設導入計画等を支援

#### 【成果】

- ①～②により、  
栽培面積：62.8ha（R2年：60ha）  
生産量：609t（R2年：565t）  
うちサンゴールド 栽培面積：14.5ha（R2年：9.5ha）  
うちサンゴールド 生産量：97t（R2年：53.6t）



太天の棚栽培



整備が進む大規模キウイ園

## ～地域づくり～

重点課題として、①地域農業を支える担い手の確保・育成、②地域を元気にし、農業を支える仕組みづくり、③地域資源を活用した農業再生、の3項目を推進します。

そのために、農福連携、鳥獣被害対策、6次産業化、荒廃農地対策等を総合的に組み合わせた地域づくりにも取り組みます。

## ～推進対象や地域づくりの方向～

### ○地域農業を支える担い手の確保・育成

#### 1 農家アドバイザーによる担い手育成の強化

##### 【取組】

- ①農業指導士、認定農業者理事30人を地域農業者のアドバイザーとしてリスト化し、指導・支援体制を整備
- ②リーダー研修会を開催しアドバイザーの資質を向上(参加者23人)

##### 【成果】

- ①②農家アドバイザーの指導により、地域農業者の実践的な栽培技術、加工や流通の知識が向上
- ①②講座による基礎技術の習得により、地域農業者の農業経営の意欲が向上

#### 2 将来のプロ農家の確保、育成

##### 【取組】

- ①市、JAと連携し就農相談活動を実施  
(西条、周桑、新居浜で50回、46人に対し就農相談を実施)
- ②就農初期農業者への技術指導  
アドバイザーを活用した研修会(1回、5人)  
農業基礎技術習得に向けた講座を実施(9回、延べ126人)  
女性農業指導士を中心とした女性交流会の実施(1回、6人)  
アドバイザーによる個別サポート(随時)
- ③就農5年目未満の就農計画目標未達成者10人を重点指導対象者とし、技術や経営面を重点的に指導

##### 【成果】

- ①②新規就農者4人確保、11人が就農準備を開始
- ①②認定新規就農者が認定農業者として認定:5人
- ③重点支援対象者10人のうち目標達成者3人



農業基礎講座  
機械のメンテナンス



農家アドバイザーが  
新規就農者を指導

### ○地域を元気にし、農業を支える仕組みづくり

#### 1 集落営農法人の連携強化

##### 【取組】

- ①石根地区の妙口原、大頭、安井の集落営農組織の再編を検討  
ネットワーク法人設立委員会を設置  
運営委員会:5回、産学官連携会議:5回
- ②新法人での研修生受入態勢を整備
- ③新法人の経営体質強化に向けた野菜栽培等の技術を指導

##### 【成果】

- ①妙口原、大頭の2法人が新たなネットワーク法人を設立  
新法人:株式会社めぐりサポートいわね(R3.10.8設立)  
【新法人の目標:経営面積100ha、売上1億円】
- ②新法人は、新たな担い手3人を確保
- ③新たな品目へのチャレンジ  
アスパラガス:32a、さといも:4ha  
畑ワサビ:5a、一寸蚕豆:5a



集落営農組織の両代表

## ○地域を元気にし、農業を支える仕組みづくり

### 2 鳥獣害対策の推進

#### 【取組】

- ①関係機関が連携し対策強化の意識統一と併せ、技術研修を実施  
被害対策をけん引するえひめ地域鳥獣管理専門員を育成
- ②被害が拡大するサル対策の推進  
モデル集落に千町を選定し、集落住民主体の取組を支援  
落葉果樹の対策として防護柵等の実証ほを4カ所設置
- ③広域化する鳥獣被害の課題解決策を検討  
東予地域えひめ地域鳥獣管理専門員連絡会を開催：4回

#### 【成果】

- ①研修会で複合柵設置の設置実習を行い、技術研鑽を支援
- ①えひめ地域鳥獣管理専門員を育成：1人
- ②大型捕獲檻、小型箱罠の捕獲実証：サル5頭捕獲
- ②新たに狩猟免許取得し活動に参加する人材を確保：2人
- ②防護柵等の技術実証ほ場すべてで前年より被害が減少  
(3カ所→被害0、1カ所→8割減少)
- ③えひめ地域鳥獣管理専門員が技術指導資料を作成しデータ化



防護柵設置研修会



サルによる防護対策として簡易保護ネット被覆を指導

## ○地域資源を活用した農業再生

### 1 農地の有効活用を目指したリレー栽培の推進

#### 【取組】

- ①ミニ野菜・軽量野菜等の高収益作物の導入を推進  
実証ほ設置：2カ所、栽培講習会：2回
- ②消費者ニーズ把握に向け、産直市でアンケート調査を実施  
(2回、調査数107人)
- ③ポップ展示等の設置による売り場作りを改善

#### 【成果】

- ①～③により、新規栽培者数：5人 新規品目導入数：4品目

### 2 6次産業化の推進

#### 【取組】

- ①6次産業化サポートセンターと連携し、農産加工品の開発を支援：1件
- ②コロナ禍においても売れる商品づくりを推進  
新たな加工品開発、パッケージの改良等を支援：4件

#### 【成果】

- ①新たな加工品開発数：8品目
- ②加工品パッケージデザイン変更数：3品目
- ②自家生産米を利用した加工品の販路拡大：1件（予定）



消費者アンケートの実施



加工品の改良パッケージ

## ～水田圃場整備を推進して農地集積を図ります～

## ○大区画化により担い手への農地の集積・集約化を目指す

### 1 県営ほ場整備事業

#### 【取組】

- ・実施中5地区において早期完成に向け工事を実施  
(氷見上部、新宮・藤木、大頭、道場、安井)

#### 【成果】

- ・実施中5地区において令和3年度までに129haを整備し、大区画農地で作付け開始

### 2 国営ほ場整備事業「道前平野地区」

#### 【取組】

- ・円滑な事業実施に向け、国及び市等との連絡調整を図るとともに地元ほ場整備委員会に対し、合意形成に向けた説明会を実施

#### 【成果】

- ・19団地、650haのうち、令和3年度までに7団地で150haが整備され、大区画農地で作付け開始



県営事業で整備された農地



地元委員会開催状況(国営事業)

～地域の特性と時代の変化に柔軟に対応し畜産基盤の承継を図ります～

○次代の担い手への経営継承支援

1 畜産基盤施設再生支援事業

【取組】

- 畜舎の改修やスマート農業を導入希望する農家を対象に補助事業や資金の情報提供と設備の導入を支援

【成果】

- 省力生産及び衛生面を向上する畜舎への改修：5戸
- 搾乳ロボットや餌寄せロボット等を導入：1戸

2 家畜伝染病の発生予防技術の導入やまん延防止体制の推進

【取組】

- 家畜伝染病を予防するための衛生管理技術指導及び補助事業や資金の情報提供と設備の導入を支援

【成果】

- 農場バイオセキュリティ対策強化支援事業  
鳥獣や小動物の畜舎内への侵入防止用ネットの整備：3戸
- 家畜伝染病予防法第6条に基づく予防的ワクチン接種  
養豚農家を対象にワクチンプログラムを実施：8戸



導入された搾乳ロボット



導入された侵入防止ネット